

業務の背景と目的

EST モデル事業の概要

EST とは、Environmentally Sustainable Transport の略で、OECD（経済協力開発機構）が提案する新しい政策ビジョンであり、長期的な視野で環境面から持続可能な交通ビジョンを踏まえて交通・環境政策を進める取り組み。

EST モデル事業は、京都議定書目標達成計画における「環境的に持続可能な交通（EST）の実現」の取り組みである。事業の概要は以下のとおり。

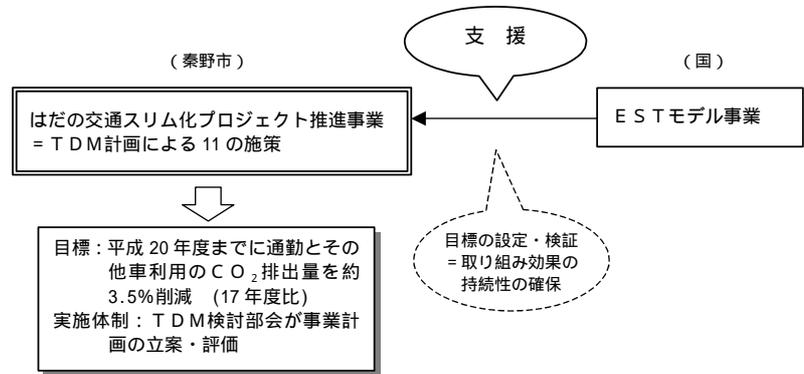
- ・関係省庁、関係部局の連携により集中的に支援
- ・環境目標の設定・検証、取組効果の持続性の確保
- ・地元の幅広い関係者が参加

平成 18 年度末時点で全国 27 箇所をモデル地域として選定している

秦野市の概要と EST モデル事業

秦野市内における通勤目的の代表交通手段別構成比を見ると、自動車の利用が 50% を超えており、朝夕のピーク時間帯では、駅周辺や国道 246 号で慢性的な渋滞が発生している。

それらを解消するための市独自の交通対策として「秦野市交通需要マネジメント（TDM）実施計画」が実施されている。これを集中的に講じていくことにより、公共交通利用促進やCO<sub>2</sub>削減に大きな効果が見込まれることから、秦野市は平成 17 年度にESTモデル地域の一つとして選定され、平成 18 年度からの 3 年間に交通に係るCO<sub>2</sub>排出量を 3.5%削減（17 年度比）という達成目標を策定した。ESTモデル事業は、TDM検討部会を実施体制として進められており、こうした市の取り組みをより拡大・推進するものとして位置づけられる。



業務の目的

本業務では、秦野市地域における EST モデル事業の推進のため、市・交通事業者・関係各機関・市内の環境団体および市民と連携し、イベントでの普及啓発活動、交通行動の変化を促す機会の提供、さらに公共交通の今後のあり方を議論する場の開催などを通じて、公共交通手段選択の普及・啓発を行うことを目的とする。

事業内容（事業内容フロー図参照）

当事業は、マイカー通勤の交通需要マネジメントに着眼した普及啓発を主目的に、『企業間の情報交換の場となる意見交換会』『環境教育の一環として TDM 教育を広めるための意見交換会』『企業の取り組みを地域の子もたちに伝える交流プログラム』の実施という企画提案で採用された。地域との調整により、当初の予定が変更となった部分もあったが、その具体的な取り組み内容を以下に示す。

企業の取り組みに関する意見交換等の実施

秦野市が進めている TDM 実施計画の施策に協力する企業及び TDM 検討部会に参加する企業を中心に呼びかけを行い、ヒアリング及び意見交換会を開催した。意見交換会では、自社のマイカー通勤の削減、時差出勤の導入等の実施状況や問題点、及びフォーラムによる秦野市民への取り組みのアピールの必要性等に関する意見交換を行った。またフォーラム開催準備として、参加意向に関する調査を実施するとともに、これまでの議論からフォーラムでのとりまとめを行うこととした。

(主な議論の内容)  
 ・従業員に取り組みの趣旨が十分理解されているとは限らない  
 ・企業としてもスタンスをはっきりさせる必要がある  
 ・企業（事業所）市民、行政、それぞれの役割を果たすことが重要  
 ・CO<sub>2</sub>削減は目標や達成状況などが見えにくいので、取り組みの手がかりが必要  
 ・他社の取り組みや子どもたちの考えも参考にしたい

《まとめの骨子（案）》  
 秦野の環境保全にもつながるマイカー通勤の削減には、市民全体での取り組みが必要  
 秦野市内にある事業所として積極的に取り組む  
 従業員には取り組みの趣旨を伝え、進んで参加するよう求める  
 従業員はもちろん、市民にも取り組んでほしい  
 国や秦野市にも公共共通の充実などの施策を要請  
 交流は有意義、今後も機会を

中学校での EST をテーマにした環境教育出前授業の実施  
 秦野市立南が丘中学校の生徒を対象に、ESTをテーマにした出前授業を実施した。授業は、2年生3クラスについて、クラス別に実施した。前もって生徒が実施した各自の家庭での自家用車利用についての事前調査をもとにグラフを作成するなどし、身近なところから環境に配慮した車の利用について考えるとともに、自動車の利用が環境に及ぼす影響、秦野市内で行われているCO<sub>2</sub>削減の取り組み等について学習した。

授業『秦野のCO <sub>2</sub> 削減を知ろう』の構成	
1)	地球温暖化について（環境や人々の生活への影響）
2)	国や地域の取り組み（授業の趣旨）
3)	交通から発生するCO <sub>2</sub> （自家用車利用の影響の大きさ）
4)	家庭の一週間の自動車利用調査の結果から考える（結果をグラフ化して考察）
5)	まとめ
6)	秦野市の交通に関する取り組み紹介（秦野市より） ・企業と生徒の交流フォーラム開催の案内

### 「家族の一週間の自動車利用調査」集計結果

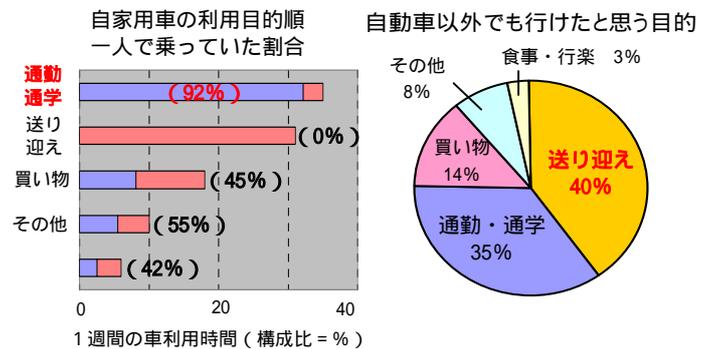
調査対象：秦野市立南が丘中学校2年生生徒の各家族  
 調査実施期間：平成19年1月15日（月）～1月21日（日）の7日間  
 調査方法：生徒各自が家族の協力のもとに調査  
 回収数：103

### 調査結果グラフ

事前調査を集計した結果、一週間の車利用時間の多さが目立ち、またその時間の約半分を1人で利用していた。利用目的が多かったものは順に「通勤（通学）」、「送り迎え」となり、『自家用車以外でも行けた』と思う利用も、多い順に「送り迎え」、「通勤（通学）」となった。

#### まとめ

一時限（50分）の授業1回の内容としてはボリュームが多く、全てを理解するのは難しかったと思われるが、生徒の感想から、車利用に関しても、自分たちにもできることがあると理解されたようである。自分たちで調査をしたこと、体を動かしてその場でグラフにしたことは、関心を高め、理解をしやすくする点で効果的であったと思われ、さらにその結果についてグループで話し合う時間が取れば、生徒たちもより具体的に考えることができたのではないかな。



#### 生徒感想

（南が丘中学校エネルギー教育広報誌「瑠璃色の地球」より抜粋）  
 最近本当に異常気象が多いので、私たち一人ひとりが気をつけてCO<sub>2</sub>削減に取り組まなくては、と思った。  
 まずは歩いていけるところには、できるだけ歩いて行くようにしようと思う。  
 車よりバスの方がお得なことを知って、これからは塾に行く時も、なるべくバスを利用しようと思った。

### 企業と生徒の交流フォーラム開催

上記及び を実施した後、これらの成果等をパンフレット「企業によるマイカー通勤削減などの取り組み事例集」（A4版16頁）にとりまとめるとともに、市民を対象としたフォーラムを開催し、マイカー通勤削減対策等、各企業の取り組みについて企業から直接説明・紹介する機会を設けた。また、ゲストによる話題提供や、出前授業実施校の生徒による家庭の自家用車利用調査の結果、授業の感想の発表などを行った上で、参加者同士が意見交換をし、秦野市における市民側からの今後の取り組みの方向性について確認を行った。

#### プログラム

開会  
 主催者挨拶 ..... 関東地方環境事務所  
 話題提供：「秦野の星空とCO<sub>2</sub>削減削減」 ..... 講師：浅見敦夫氏  
 秦野市の取り組み紹介：「はだの交通スリム化プロジェクト」が目指すもの ..... 秦野市都市計画課  
 企業・生徒によるプレゼンテーション：  
 秦野の交通スリム化を進めている企業から（株式会社島津製作所、東京電力株式会社、東芝セラミックス株式会社）  
 秦野市立南が丘中学校生徒から  
 関東運輸局の取り組み紹介：「交通から考える地球温暖化対策」 ..... 関東運輸局  
 意見交換：「住みよい秦野の環境を守り続けていくために」  
 閉会

## 企業の取り組み事例

事業所名	主な取り組み内容
(株)コベルコマテリアル銅管 秦野工場	1キロ以内はマイカー通勤自粛、さらに範囲拡大を呼びかけ
(株)島津製作所 秦野工場	市の呼びかけの期間を延長、冬季の水曜・金曜をノーマイカーデーに
東京電力(株) 小田原支社	以前から市内営業所では原則マイカー通勤を禁止
東芝セラミックス(株) 秦野事業所	毎月『ガソリン 100 リットル』節減を目標に、独自のマイカー通勤自粛呼びかけ
(株)トープラ	ノーマイカーデー参加は、渋滞道路利用者に重点的に呼びかけ
山武コントロールプロダクト(株)	市のノーマイカーデー以前に、冬季マイカー通勤自粛の運動
横河電子機器(株) 秦野事業所	06年、延べ1300人以上がノーマイカー通勤・時差出勤
(株)米山電子工業	人材派遣事業部門も含め、市のノーマイカーデーに参加
(株)リコー 秦野事業所	秦野の農地や里山保全活動に取り組みながら、ノーマイカーデーに参加
(株)リンレイ 秦野工場	20年前から年数回、会社独自の「ノーカーデー」を実施

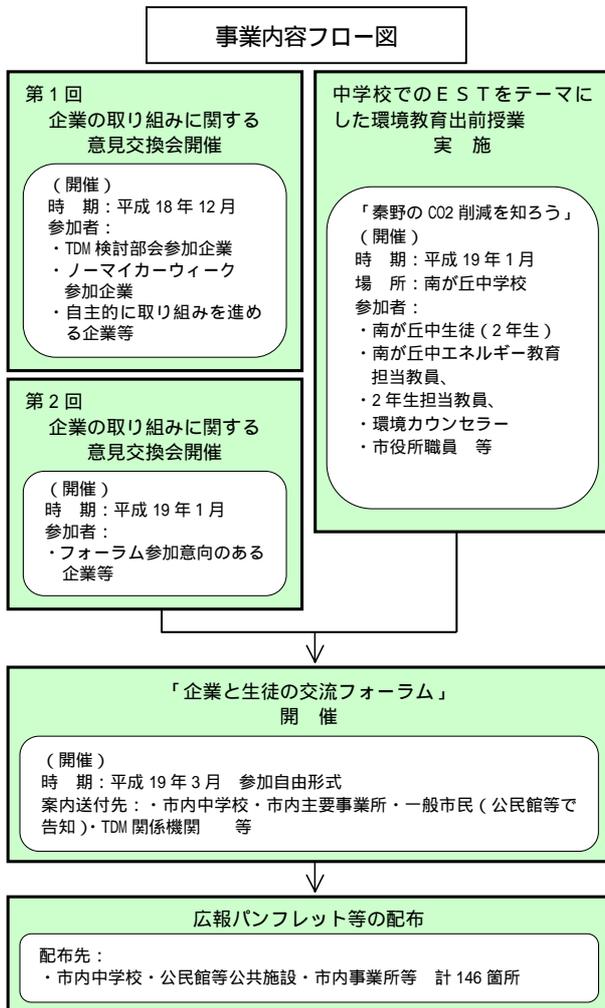
## 来場者アンケート結果

当日、会場にてフォーラム参加者を対象にアンケートを実施した。参加者が少ないという指摘や、開催に当たっての広報・集客面での課題は残ったが、内容については、参加者のうち9割が、「期待以上」、「期待どおり」との評価であり、「このような場をもっと増やしてほしい」、「企業が本気で取り組んでいることがわかった。そういう取り組みをもっとPRするべき」、「南が丘中学校のような環境学習が理解・啓発につながる。他の小・中学校でも実施を」といった意見があった。また、CO<sub>2</sub>削減に向けた自身の行動として、「車の利用を考えて減らす」、「会社として車通勤の制限を見直す」、「月何回かでも通勤をバスや自転車に換える」など、前向きな意見が多く見受けられた。

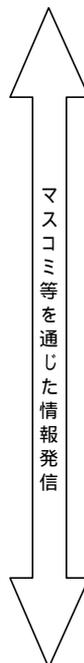
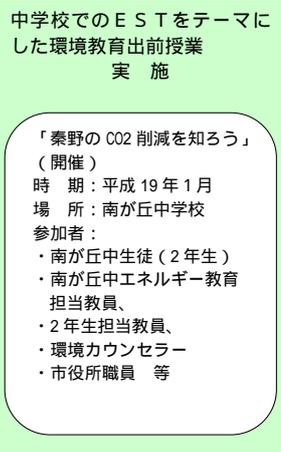
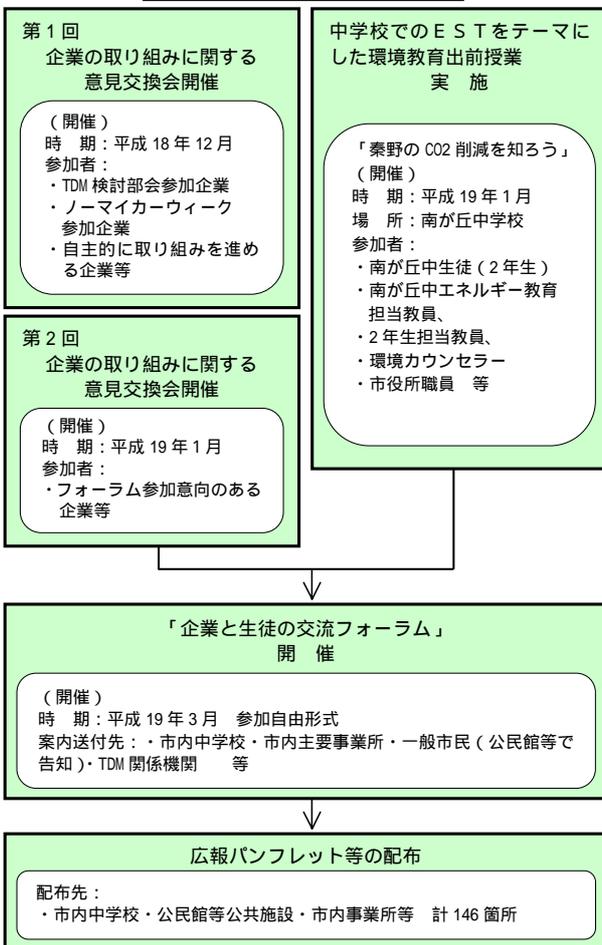
## 広報パンフレット等の配布

パンフレット「企業によるマイカー通勤削減などの取り組み事例集」はフォーラム資料として出席者に配布した。また、フォーラムの開催後、その結果をリーフレットにまとめ、パンフレットと併せて市内の主な企業や中学校、公共施設に配布し、環境にやさしい交通へ向けての普及啓発を行った。

## フォーラム開催報告リーフレット



### 事業内容フロー図



出前授業の様子



フォーラムの様子